

ポータルサイト

SharePoint® Server 2007

株式会社 ケーヒン 様

グローバルな「以心伝心」を可能にする社内ポータルを
Microsoft Office SharePoint® Server 2007で構築。

導入の背景

以前から“社内における情報共有のあり方”について、さまざまな角度から検討・調査を重ねていた。従来の情報発信では、情報が浸透するのに時間がかかっていたため、双方向での情報活用ツールが必要と考えた。

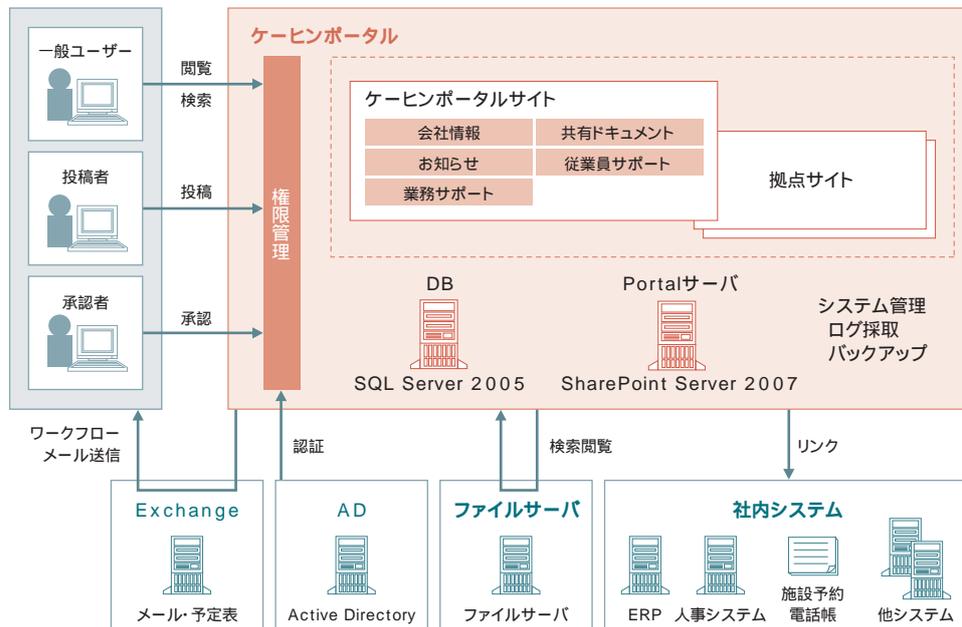
さまざまなファイルが散在していたため、目的の情報や最新ファイルのフォーマットをみつけづかった。

ポータルを利用することで企業フィロソフィーの実現を狙った。

事例のポイント

基幹系構築後、情報系システムにも注力
既存IT環境との連携をポイントにして提案を実施
SharePoint® Server 2007でのポータル構築
情報の発信・共有・検索機能を充実

システム概要図



システムの概要

システム名称: ケーヒンポータル

システム概要: 国内および海外の全拠点で利用可能なポータルサイトの構築。更新情報や個人への「お知らせ」などが分かりやすい視認性に富んだポータルをSharePoint® Server 2007で構築
開発期間: 約2.5カ月

システムユーザー数: 全社員
(3,000人規模)

選定理由

マイクロソフトActive Directory、Exchange Serverとの親和性の高さを重視した。視認性やユーザーの操作性の点で他のポータルより抜きん出ている。

導入をスムーズに行うことができ、運用面が簡便である。

日本ユニシスのSharePoint® Server 2007 版からのノウハウと構築サービス。マイクロソフトの強力なアライアンスも安心材料となった。

株式会社 ケーヒン 様

本社入り口



角田第二工場



角田第三工場



栃木開発センター



導入の背景

社内の情報伝達・共有の課題を解決するために社内ポータルサイトの構築を検討。

二輪車・四輪車の電子制御システムや中枢部品を開発・製造する総合システムメーカーとしてグローバルな事業を展開されているケーヒン様は、2003年当時から「社内における情報共有のあり方」について研究を重ねていた。従来のMicrosoft Exchange Serverは、1:nの情報発信であり、情報の浸透に時間を要し、双方向での情報共有が困難、検索がしづらい...などの課題があった。これらの課題を解消するためのツールとして着目したのが社内ポータルサイトだった。ここには、同社の理念である「ケーヒンフィロソフィー」を実現させたいという狙いもあった。管理本部情報システム部長の長谷川清志氏は次のように説明する。

「ケーヒンフィロソフィーでは『理論とアイデアと時間を大切にしよう』ということを掲げています。ポータルは、まさにこれを実践するツールになると考えました」

選定理由

従来のIT環境との親和性と安心感、将来的な拡張性に期待。

ケーヒン様では日本ユニシスを含む数社のITベンダー数社に提案を依頼、最終的にマイクロソフトの最新情報統合基盤であるSharePoint® Server 2007と日本ユニシスのSharePoint® Server 2007構築サービスの提案を採用した。

管理本部情報システム部システム企画課の高橋和也氏は次のように語る。

「一番大きな採用の理由は、当社がマイクロソフト製のOA・ネットワーク管理ツールを利用していたこと。特にActive Directoryとの親和性の高さは見逃せませんでした。また、視認性やユーザーの操作性の点でも他のポータル製品より抜きん出ていました」

さらに、日本ユニシスとマイクロソフトが、かねてから共同でSharePoint® Server 2007の評価検証に取り組んでいるなど、その強力なアライアンスを進めてきたことも安心材料となった。

導入の効果

情報の伝達・共有・検索を容易にし、社内のコミュニケーションを大幅に改善。

システム導入はスムーズに進み、構築までに要した期間は、およそ2.5カ月。管理本部内での検証稼働を経て、2007年6月末には国内各拠点、子会社出向者を含む約3,000人を対象に運用を開始する予定だ。

「ケーヒンポータルの大きな特徴は3つあります。1つ目はユーザーにとって必要な情報をリアルタイムに発信できる『お知らせ』の機能。2つ目は、統一フォーマットで必要な情報を適切に共有・管理できる『フォルダ機能』、3つ目は全部門の情報を一括検索できる『検索機能』です」(高橋氏)

こうした機能によって、「社内からも社内施設や備品の予約管理が格段に簡便になったという声が寄せられています」と管理本部情報システム部システム企画課の内山喜代枝氏は語る。

また、管理本部総務部法務広報課長の丸山隆司氏は「ポータルの導入は総務部の業務フローを大きく変え、作業工数も大幅に削減してくれる可能性がある」と期待しています」と語る。



今後の展望

“以心伝心”の輪をグローバルに広げ、“ケーヒンフィロソフィー”を実現していく。

今後は、海外拠点や、国内出張者も利用できるようにしていくほか、部門単位でのポータルサイトの構築をめざしている。また、「シングルサインオン」や、「B(ビジネスインテリジェンス)」も実装していく予定だ。

「今後は海外拠点にまでケーヒンポータルが公開されます。これによって拠点間の壁や距離を越えて、従業員全員の気持ちが通じ合うこと、つまり『以心伝心』の輪がグローバルに広がっていくことを期待しています。この社内ポータルサイトが「ケーヒンフィロソフィー」の実現に大きな意味をもつツールになるよう、これからも日本ユニシスの支援を期待しています」(長谷川氏)

日本ユニシス株式会社

本社 東京都江東区豊洲1-1-1
電話 03-5546-4111(大代表)
URL <http://www.unisys.co.jp/>
E-mail dotnet-box@unisys.co.jp

事例インタビューの全文はこちら

URL <http://www.unisys.co.jp/dotnet/casestudy.html>